

## 『学校だより』令和2年度8月号

在籍数：小学部12名、中学部2名 合計14名

Escuela Japonesa de Panamá

パナマ日本人学校

TEL: 223-7782 269-4726 FAX: 264-4751

E-mail:japonesa@cwpanama.net http://panama.lolipop.jp/



### 困難な中の令和2年度第2学期が開始します

校長 小坂 誠二

歴史的に見ても大変困難な1学期が終了し、2学期が開始します。パナマ日本人学校が創設されてこれほどの危機感は、今から30年前の平成元年（1989年）アメリカ軍のパナマ侵攻以来ではないかと想像されます。

あの時には、小学部46名、中学部25名、合計71名が在籍していたようです。数日間学校が休校になったということだけは聞いていますが、さぞ危険を感じながらの待機生活だったこととされます。ですから、アメリカ進行の情報が入ったためか、児童生徒数の減少は著しかったようです。119名（1987年）→74名（1988年）→71名（1989年）しかしその後は、微減少にとどまっています。

今回は、世界的な新型コロナウイルス蔓延という事態の中での生活になります。日本は、第2波が到来しているともいわれています。首都圏と地方都市では感染状況に温度差があるように思われますが、これを機会に、家族の結びつきをもう一度見直し、この難局を乗り切っていきましょう。パナマと日本と別れての2学期開始となりますが、教職員もできる限りのご協力をしていきたいと考えていますので、何かありましたらご連絡いただければと思っています。

### 海外子女文芸作品コンクールご応募ありがとうございました

今年も大変厳しい環境の中で、海外子女教育振興財団主催の文芸作品コンクールにご応募いただきありがとうございます。作文、俳句、短歌、詩と4部門に分かれての応募になりますが、パナマ日本人学校は、昨年大変すばらしい賞をいくつもいただいたことが記憶に新しいと思います。

応募いただいたこれらの作品を見ますと少人数ながら感性の鋭い児童生徒に育っていることをうれしく思います。ひとこと作品を紹介しますと、

- ・苦手を得意に変えるきっかけを作ってくれた水泳を題材に書かれた作文
- ・第2の家としてこの日本人学校をとらえ自分を成長させてくれた場所として書かれた作文
- ・コロナでの家中心の生活の中にも、時間を工夫して前向きに描かれている作文
- ・イグアナの目の中に夏の雲を見る観察力鋭い俳句作品
- ・アジサイ花をうたった俳句は一時帰国中の作品
- ・日本人学校に来てからできるようになったことから自分の成長に気づいている作品
- ・パナマの好きなことをいくつも上げ、突然の行動制限から早く友達に会いたいと願う作品
- ・自分自身を太陽のごとく表現し、性質や働きを詩で表現した作品
- ・日本人学校の運動会を見て憧れ、一輪車の練習に励む1年生
- ・パナマに来て海に行った楽しさを表現できた1年生
- ・けん玉に熱中する自分を描いた作文
- ・ハチドリと一緒に蜜を飲む姿を想像する俳句
- ・スコールの道路がまるで海のように見えるという作品
- ・入梅を題材にした俳句は同じく一時帰国中の作品 等々

どの作品も、このパナマでの生活、そしてコロナでの生活から子供ならではの感性が表現されて素晴らしいものになっていました。この時期の応募に関わらず、時々メモしたりしておくパナマという他のお子さんたちとは違った体験の中にあるので、貴重な作品が出来上がると思います。

